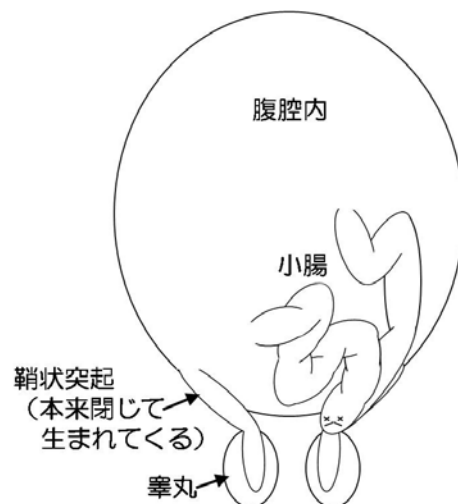


鼠径ヘルニア(脱腸)

＜＜脱腸とは＞＞

鼠径ヘルニアは**鞘状突起(しょうじょうとつき)**が開きっぱなしのまま生まれてきたために起こる先天性な疾患です。腹壁(おなかの壁)は外から皮膚、皮下脂肪、筋肉、腹膜(おなかの膜)の順に並んでいますが、腹膜が股のところでふくらんでいるところを**鞘状突起**といいます。鞘状突起は男性では陰嚢内まで、女性では恥骨まで続いています。腹膜でおおわれたおなかの中には腸、胃、肝臓などが入っています。女性では卵巣もおなかの中にあります。鞘状突起が開いているために、そこに腸が入り出すので「脱腸」といいます。



＜＜手術の適応＞＞

絞扼(こうやく)約1000人に1人

1) 手術が絶対に必要. ときに緊急手術

腸が入り自由な時は、痛みもなくただ出ているだけなので心配ないのですが、腸が出た時に根元の筋肉に締め付けられることがあります、これを絞扼(こうやく)といいます。これを放置すると大変危険で、**6時間**以上経つと腸の血の巡りが悪くなって、腸に穴が開いてしまいます。そうなると腹膜炎になり大きな手術をして腸を切らなければなりません。絞扼を見つけることは簡単で、

- ① 激痛のため激しく泣く(今までにない、狂ったような泣き方)
- ② ヘルニアのふくらみが硬くなっていて、そこを触らせてくれないほど痛がる

などが典型的な症状です。

絞扼(こうやく)した時には、あわてずに、以下の手順で対応してください。

- ① 食べたり飲んだりすることをすぐに中止する(緊急手術の可能性があるので)
- ② お子様を抱っこしたりあやしたりして落ち着かせる(無理なことが多い)
- ③ 病院に電話してから自家用車やタクシーで病院に向かう(救急車は使わない)

電話番号

011-711-0101 (天使病院 代表)

本人のつらさ、美容上

2) 急ぎではないが将来のことを考えると手術したほうがいいと思われるもの

鞘状突起(しょうじょうとつき)は生まれてからは自然に閉じることはないと言われています。しかし1歳未満で発症したこどもの6人に1人が、約半年後に出なくなったという報告があります。鞘状突起が開いているのに出なくなるのは、筋肉がシャッターのようにおおって出さないようにするためです。ですから、歳をとって筋肉が弱まった時に出てくる人がいるのです(鼠径ヘルニアは小児と高齢者に多い)。経過をみてから手術しても遅くはないとも考えられます。ただし、集団生活を始めて他人との違いがわかる4から5歳頃までには手術したほうがいいかなと思います。またその頃までにすると、ほとんど記憶に残らないと思います。このような状況では、急ぎではありませんので、ご家族の都合(ご両親の休暇や付き添い、他に小さなお子様がいらっしゃる、お母さんが妊娠中など)に合わせて手術の予定を立てることが可能です。

ありうる選択肢のひとつ

3) 手術をしない

実際に手術をしないまま成人している人もかなりいます。ご本人は当たり前のように慣れてしまっていて、苦痛はないようです。成人してからの手術は傷が少し大きくなったり、仕事などに支障をきたす恐れがあったり、また女性の場合妊娠中に出ることがありますが、ご本人やご家族の考え方次第です。

<<手術の内容>>

鞘状突起(しょうじょうとつき)の根元が開いているのが原因なので、その根元を縛っておしまいです。

当院では腹腔鏡手術を導入しています。 臍上部を7mmほど切開して、腹腔鏡といわれるカメラを入れて、おなかの中から鞘状突起の開存を確認します。左の脇腹と、鞘状突起の根元直上に針穴をあけて、根元を縛る手術をします。

腹腔鏡のメリットとして、

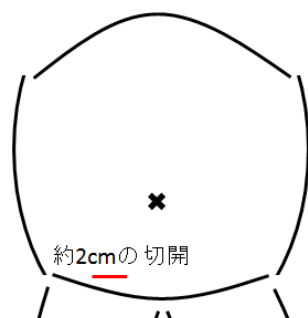
- ① 傷が小さく目立ちづらいこと
- ② 両側のヘルニアが10%といわれており、腹腔鏡で両側の鞘状突起開存が確認できた場合は両側とも治療できること

があげられます。両側とも治療する場合は針穴がもう一つ増えることになります。

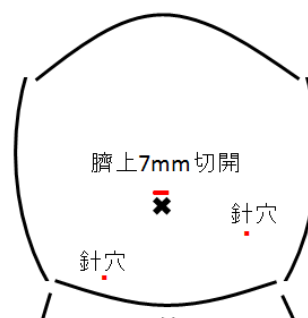
腹腔鏡で縛ることが難しい場合は、従来のやりかた(下腹部のしわに沿って2cmほどの切開)に切り替えることがあります。

手術時間は麻酔の時間が手術前後合わせて1時間前後、実際の手術は30分程度です。傷は将来ほとんど見えないくらいに薄くなります。

従来の方法(右側の場合)



腹腔鏡(右側の場合)



《手術の危険性》

1)全身麻酔 …約10万回に1回の死亡率

天使病院で行われる全身麻酔は低出生体重児から高齢者まで合わせて1年間に約1000件です。単純計算で100年に1回の極めてまれな出来事です。起こる出来事は麻酔薬に対する強烈なアレルギー反応による呼吸障害や不整脈や血圧低下などの循環障害です。誰に反応が起こるのかを前もってわかることができないので、全員に起こることを想定して行われています。手術室は緊急に対応できるもっとも安全な場所ですので、ほとんど心配はありません。

2)出血 …にじむ程度出血量です

3)感染 …ほとんど起こりません

感染とは傷が化膿することですが、傷が小さくて浅い、時間のかからない手術ですので、ほとんど起こることはありません。ただしもし万が一感染した時には、傷を少し切開してうみを出す処置が必要なことがあります。

《手術の予定の立て方》

小児の鼠径ヘルニアの手術は、原則として月・金曜日の午前中に行っています。

入院は、次の2通りの方法があります。

- 日帰り(1日入院扱い)…手術当日、朝来院して手術を受け、夕方に帰宅する。
- 1泊2日…手術当日、朝来院して手術を受け、翌日退院する。

日帰りか1泊2日かは、お子さんの年齢、お宅からの距離、ご家族の都合などを考慮して決めています。

手術を希望される場合は、以下の手順で進めさせていただきます。

- ① 希望日を2, 3日決めてください。
- ② 遅くともその日の2週間前に再受診してください。再受診された時に手術の日時を決定いたします。また同時に麻酔に必要な検査(血液検査、胸部レントゲン、心電図)を行います。
- ③ あとは手術の週に麻酔科外来(月～金の午前9:30)を受診していただき、麻酔科医の診察と説明を受けていただきます。

《手術予定を立てた後に病気をしたとき》

すぐにご連絡をお願いいたします。発熱、ひどいせき、ひどい鼻水などは麻酔の障害になることがありますので、状況によっては一度延期して、治ってから予定を立て直したほうが安全です。ただし絞扼は待てませんのですぐに対処させていただきます。

《ワクチンとの関係》

ワクチンを受けた後は1～3週間あいたを空けてから手術します。ワクチンによって発病したり、ワクチンの効果が弱くなったりすることがありうるためです。

期間はワクチンの種類によって異なるので、外来で相談してください。

術後のワクチンは1週間を過ぎて全身状態がよければ受けることが可能です。

《手術当日のスケジュール》

1) 麻酔科医から説明される手術前夜と当日朝の絶飲食の指示をお守りください。

麻酔をかける時に胃に物が入っていると、吐いてつもらせる危険性があるからです。

2) 小児外科外来に8:30までにいらしてください。

簡単な診察の後で着替えをしてもらいます。

手術室への入室は9:00ころか10:30ころです。

3) 入室後1時間半前後で手術が終了して病棟に入院します。

手術が終わった直後は、まだ麻酔がさめきっていないので異常に興奮していることがあります。しかし心配は不要です。

少し騒いだ後に3、～4時間眠ると麻酔は完全にさめます。さめた後は飲んだり食べたりでき、その時点で点滴を抜きます。その後退院手続きと次週の外来予約が終わると退院可能です。

4) 傷は細い溶ける糸を使って、糸が皮膚の下に埋まってしまうように縫いますので、抜糸はありません。

消毒やガーゼは不要です。当日から入浴可能です。食事制限や運動制限もありません。

5) 退院前に次回の小児外科外来受診日(月・木・土曜日の午前か水曜日の午前・午後)を予約してください。

手術後は一度受診していただくだけで通院は不要です。